

所属名	事務事業名	ページ番号
交通政策課	地域公共交通計画策定事業	2
交通政策課	公共交通維持確保推進事業	3
交通政策課	北部地域交通運行経費	4
交通政策課	佐賀駅バスセンター乗り場再編事業	5
交通政策課	地域内公共交通維持確保特別支援事業	6
交通政策課	自動車運送事業会計関係事業	7
交通政策課	赤字路線バス運行事業	8
交通政策課	都市間バス路線等運行対策事業	9
交通政策課	路線バス燃料油価格高騰特別支援事業	10
交通政策課	バスセンター管理事業	11
交通政策課	バスセンターサイン再編整備事業	12

令和5年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	地域公共交通計画策定事業	事業期間	令和 3 ~ 令和 4 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	交通事業者、公共交通利用者、行政機関等で組織される佐賀市地域公共交通協議会において、地域公共交通計画を策定し、佐賀市における公共交通の考えを明らかにすることで、その実現に向けて各主体が取組みを行うもの。				
事業の対象者	市民				
根拠法令等	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律、道路運送法、佐賀市総合計画、佐賀市都市計画マスタープラン				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額			9,260		
うち佐賀市の負担額			7,153		

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
佐賀市地域公共交通協議会の開催					回	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
	1	5				
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

地域公共交通計画策定主体である佐賀市地域公共交通協議会を開催し、交通事業者や公共交通の利用者、関係行政機関と協議を行い、令和5年から令和9年までの5年間を期間とする「佐賀市地域公共交通計画」を策定した。今後は計画の実施主体にもなるため、事業の実施及び進捗管理を行っていく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	公共交通維持確保推進事業	事業期間	平成 31 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	公共交通空白地域等において、公共交通検討協議会を開催し、地域が主体となって地域のニーズに沿った公共交通を導入することで、公共交通空白地域を解消し、地域福祉の向上を図る。				
事業の対象者	市民				
令和4年度主な活動実績	春日北校区、諸富地区及び久保泉校区において、地域内公共交通の導入や利用促進について話し合うため、地域検討会にファシリテーターを派遣した。 ・春日北校区 2度の試験運行を行い、本格運行を実施することを決定した。 ・諸富地区 試験運行を実施することを決定し、運行計画をまとめた。 ・久保泉校区 アンケート調査を行い、デマンドタクシーの導入を検討することを決定した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	37,006	2,385	4,722		
うち佐賀市の負担額	11,303	834	2,513		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
公共交通検討協議会開催数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
3	5 4	7 8	7	7		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	公共交通空白地域等におけるモデル校区として、新たに諸富地区及び久保泉校区を採択し、協議会開催回数が目標を上回った。



成果目標達成に向けた対応策等
各地域において、それぞれの地域の特性を踏まえ、地域住民や運行会社等の関係者の意見調整を行いながら、本格運行に向けて検討を進めていく。本格運行後も会議を開催することで、問題・課題等の把握に努める。また、モデル地区である3校区の成果を踏まえ、今後の地域内交通の導入支援の制度化について検討していく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	北部地域交通運行経費	事業期間	平成 17 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	過疎地域などを抱える北部地域は人口が減少しており、民間バス会社では路線バスの採算が見込めない。そのため、市が三瀬地区コミュニティバス、富士町コミュニティバス及び松梅デマンドタクシーの運行欠損額相当分の補助を行うことで、高齢者や児童等の公共交通の確保及び地域福祉の充実を図っていく。				
事業の対象者	市民、タクシー業者				
令和4年度主な活動実績	・三瀬地区コミュニティバス、富士町コミュニティバス及び松梅デマンドタクシーの運行事業者に対する欠損補助				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	56,770	59,475	61,183		
うち佐賀市の負担額	50,490	55,395	48,783		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
コミュニティバス及びデマンドタクシー利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
46,307	46,886 47,451	47,121 43,327	47,357	47,563		

Year	Target	Actual
R2	46,307	46,307
R3	47,451	46,886
R4	43,327	43,327
R5	47,357	43,327
R6	47,563	43,327

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

Year	Target	Actual
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	通学で利用する学生や高齢者など定期的な利用者が減少したことにより、全体で前年比約4,120人減少した。



成果目標達成に向けた対応策等
地域の公共交通に関する時事や利用実績などを掲載したニュースレターを、定期的に運行地域に全戸配布することで、住民に対して広く周知し、利用促進を図っていく。また、新たな取組として富士町コミュニティバスでは5割引の回数券を販売したり、乗り方教室を実施するなど利用促進を図っていく。

令和5年度 事務事業実績報告シート

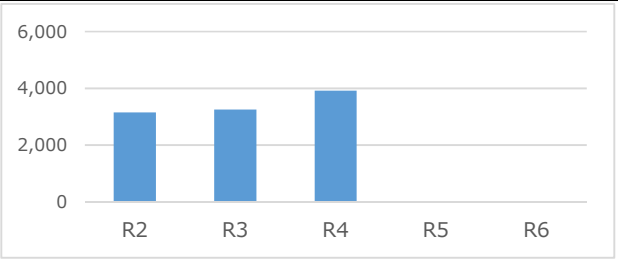
事務事業名	佐賀駅バスセンター乗り場再編事業	事業期間	令和 4 ~ 令和 4 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

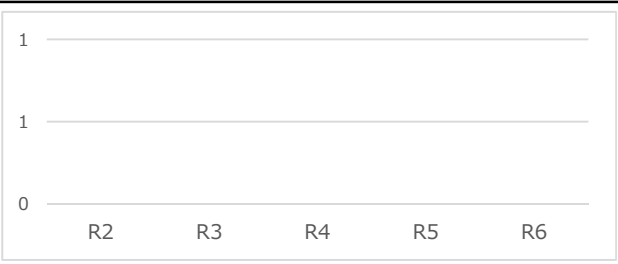
事業概要・目的	佐賀駅バスセンターの乗り場を、各会社別の乗り場から行先方面別の乗り場に再編することで、バス利用者の利便性を向上させる。 バス・ロケーションシステムを導入している路線バス事業者6者（昭和自動車株式会社、祐徳自動車株式会社、西鉄バス佐賀株式会社、西鉄バス久留米株式会社、西日本鉄道株式会社、佐賀市交通局）の運行情報を、佐賀駅バスセンターに設置するデジタルサイネージに表示するシステムの構築や、令和4年10月1日から乗り場が変わるための広報及び案内業務を実施。				
事業の対象者	市民、バス業者				
根拠法令等					
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額			15,927		
うち佐賀市の負担額			9,552		

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
路線バス利用者数					千人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
3,150	3,250	3,926			



活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

佐賀駅バスセンターがリニューアルしたことで利用しやすくなったとの意見を聞いている。待合環境の向上を図ることで公共交通の利用促進を行っていく。今後は導入したデジタルサイネージの運用を行い、利用者にわかりやすく運行情報を表示する。

令和5年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	地域内公共交通維持確保特別支援事業	事業期間	令和 4 ~ 令和 4 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	地域内交通の運行車両として、新型コロナウイルス感染症対策を施したジャンボタクシーを1台購入した。				
事業の対象者	バス事業者				
根拠法令等					
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額			3,646		
うち佐賀市の負担額			0		

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
貸与車両数					台	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
		1				
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>新型コロナウイルス感染症対策を施したジャンボタクシーを貸与し、コミュニティバスを運行することで地域公共交通の維持を図った。</p>
--

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	自動車運送事業会計関係事業	事業期間	平成 9 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民福祉の向上及び市民の日常生活における交通手段を確保するため、経営が厳しい交通局に対し補助金、繰出金等を支出することにより、経営の健全化を図る。				
事業の対象者	市民、交通局				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・生活交通路線協調補助（11系統） ・バス停上屋設置補助（2基分） ・超低床型バス導入補助（新車3台分） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	164,821	150,466	139,273		
うち佐賀市の負担額	164,821	150,466	139,273		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
市営バスの利用者数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,428	3,303 2,642	3,319 3,136	3,336	3,353		

成果指標②						単位
市民一人当たりの市営バスの利用回数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
10.4	14.2 11.4	14.3 13.7	14.4	14.5		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	路線バスの利用者は前年よりも増加したが、目標を下回った。



成果目標達成に向けた対応策等
令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、徐々に回復傾向にある。事業の回復に向け、交通局が令和元年6月に策定した「佐賀市営バス事業新経営計画」に基づいて実施する増収対策、サービス向上対策及び節減対策の進捗状況を見極め、必要に応じて意見を述べることで、現状のバス路線を維持することを基本としながら事業費の増大を抑える。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	赤字路線バス運行事業	事業期間	平成 18 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	交通局の経営効率化を進める必要がある一方、高齢化社会の進展や運転免許証の自主返納者数の増加を踏まえると、地域における生活交通路線を維持することも必要である。そのため、現在交通局が運行している路線のうち、赤字幅の大きい8路線（令和4年10月1日から7路線）を市の交通政策路線に位置づけて運行することにより、公共交通サービスの維持と市民の移手段の確保を図る。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	交通局の路線のうち、赤字幅が大きい8路線（令和4年10月1日から7路線）について、市の交通政策による路線として運行した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	70,691	76,985	77,741		
うち佐賀市の負担額	70,691	76,985	77,741		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
赤字8路線の利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
337,439	339,126 344,530	340,822 387,454	342,526	344,239		

成果指標②						単位
						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	路線バスの利用者はコロナ禍以前と比べると依然として減少が続いているが、赤字8路線の利用者数は目標を上回った。



成果目標達成に向けた対応策等
交通局が令和元年6月に策定した「佐賀市営バス事業新経営計画」に基づいて実施する増収対策、サービス向上対策及び節減対策の進捗状況を見極め、必要に応じて意見を述べることで、現状のバス路線を維持することを基本としながら事業費の増大を抑える。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	都市間バス路線等運行対策事業	事業期間	平成 22 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	利用者の減少により路線の維持が困難になっている民間の乗合バス事業者に対し、予算の範囲内において補助を行い、関係自治体等と協調して広域生活圏の機能保持を図るとともに、交通弱者をはじめとする市民の移動手段の確保を図る。				
事業の対象者	民間バス事業者				
令和4年度 主な活動実績	祐徳バス（佐賀、武雄）、昭和バス（古湯、多久、佐賀唐津、中極）、西鉄バス（沖新、江見、神埼）、ジョイックス交通（三瀬神埼）各線の欠損補助				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	95,982	92,593	90,151		
うち佐賀市の負担額	75,082	67,893	90,151		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
民間事業者補助対象路線の乗車人数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
721	721 608	721 790	721	721		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	路線バスの利用者はコロナ禍で落ち込んだが回復してきており、目標を上回った。



成果目標達成に向けた対応策等
令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、徐々に回復傾向にある。各交通事業者と連携し、利用者を維持するとともに、各路線沿線市町と協調して利用促進に取り組む。

令和5年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	路線バス燃料油価格高騰特別支援事業	事業期間	令和 4 ~ 令和 4 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により利用者数が激減するなか、燃料油価格高騰の影響を受けながら運行を継続している路線バス事業者を支援することにより、市民生活に必要な公共交通の維持を図る。 内容：路線バス燃料油価格高騰特別支援金の支給。 市内における燃料資料量×20円/L				
事業の対象者	市内の営業所を利用するとともに、市内を運行するバス路線を有する路線バス事業者				
根拠法令等					
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額			21,821		
うち佐賀市の負担額			0		

2 事業の活動実績

活動実績①					単位	
支援金支給事業者					者	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		
		5				
活動実績②					単位	
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績		

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

燃料油価格高騰特別支援金の支給により、路線バスの維持を図った。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

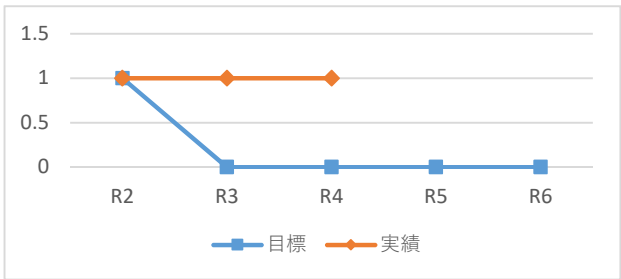
事務事業名	バスセンター管理事業	事業期間	昭和 51 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係	担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	地域資源を活かして新たな賑わいと活力を創出するまち	
	施策	03賑わいあふれる中心市街地の活性化	
	基本事業	街なか再生の基盤整備	

1 事務事業の基本情報

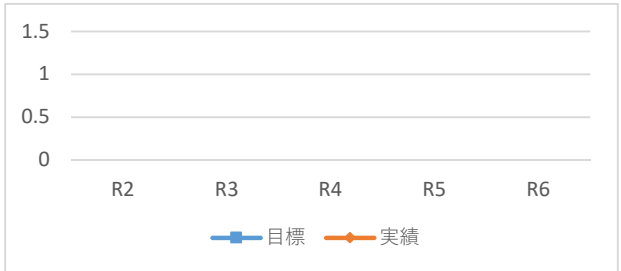
事業概要・目的	日々、多くの利用者がある佐賀駅バスセンターの利便性及び快適性を確保するため、適切な管理を行う。				
事業の対象者	バスセンター利用者				
令和4年度 主な活動実績	佐賀駅バスセンターの利便性及び快適性を確保するため、適切な管理を行った。 ・佐賀駅バスセンターの借地料 13,680,000円 ・佐賀駅バスセンター設備補修費等 1,462,186円 ・夜間警備等に要した経費 4,513,100円				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	20,502	18,519	20,661		
うち佐賀市の負担額	0	0	1,233		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
利用者の満足度 (提言中苦情件数)						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1	0 1	0 1	0	0		



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	佐賀駅バスセンターを利用する方の利便性、快適性を確保するため、日々の管理に努め、夜間の警備業務等、佐賀県バスタクシー協会などの事業者と連携を図りながら実施した。



成果目標達成に向けた対応策等
管理・運営を行っている県バスタクシー協会と連携して、社会情勢の変化に対応し、利便性及び快適性の確保に努める。

令和5年度 公共事業進捗報告シート

公共事業名	バスセンターサイン再編整備事業		事業期間	令和 3 ~ 令和 4 年度
担当部署・係名	交通政策課 交通政策係		担当課長名	溝口 貴宏
総合計画における位置づけ	政策	地域資源を活かして新たな賑わいと活力を創出するまち		
	施策	03賑わいあふれる中心市街地の活性化		
	基本事業	街なか再生の基盤整備		

1 公共事業の基本情報

整備概要	佐賀駅バスセンターのサイン再編事業（撤去・新設、配置見直し、案内表示・時刻表の多言語化、デジタルサイネージの設置等）				
整備の目的	佐賀駅バスセンターのサイン再編により、来街者（市民、国内外観光客等）に対し、観光施設等への円滑な誘導を図る。				
事業費決算（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	年度	年度
工事請負費					
測量・監理等委託料		4,400	37,798		
用地購入費					
補償費					
その他事務費等					
計	0	4,400	37,798	0	0
うち佐賀市の負担		2,200	3,104		
区分	年度	年度	年度	年度	合計
工事請負費					0
測量・監理等委託料					42,198
用地購入費					0
補償費					0
その他事務費等					0
計	0	0	0	0	42,198
うち佐賀市の負担					5,304

2 事業の進捗率

R2	目標 実績	R3	目標 実績	R4	目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績
		30.0% 14.6%	100.0% 100.0%								

